

さざなみ作業所

福祉作業施設統合移転と SHOP の顔づくり

■施設統合移転

創立 20 周年を迎える社会福祉法人さざなみ福祉会が運営する二つの事業所、就労継続支援 B 型作業所「さざなみ第二作業所」と地域活動支援センター I 型「リプル」の統合移転事業である。まずは移転先を探すことからのスタートだった。移転先が見つかるまで、数件の候補物件があったが建物の築年数が古く構造的な問題による安全性の不安や、道路との高低差などで寄付きが困難など、なかなか良い物件がなく、ようやく 1 年後に見つかったのが店舗付き住宅であった。築 30 年の鉄骨 3 階建て延べ床面積 240 m² (各階 80 m²) ほどの床面積で過去には料亭や電気屋として使用されていた。1 年前にリフォームされており、敷地内に 8 台分の駐車場スペースも確保されていた。

事業規模を抑える為、1、2 階のみを事業所として使用することを提案。また屋外階段と室内階段が設置されていた事もあり、構造的にはほぼさわずにすんだ。

さざなみ第二作業所ではてんかんや知的障がいをもつ仲間が自立を目指して働いている。活動内容は、清掃作業、帳合作業、お菓子作りと販売も行うため 1 階に設けることとした。2 階は地域活動支援センターを設置。リプルでは日常的な相談に応じたり、地域交流活動などを行い精神障がい者の日常生活を支援し精神的自立と社会参加の促進を図る場とすることとした。具体的にはみんなでのんびりおしゃべりをしたり、季節のイベントや日常の相談を受けたり心の元気を取り戻すお手伝いをしている。



二つの作業所は利用者の休日が異なる為、施錠の管理が必要であったが、二方向の階段を活かして非常時にはワンアクションで下の階へ避難できるようにした。二階利用者の安全対策として屋外階段の手摺を改修し、同時に職員が利用者の行動に目配りできるようインターホンを設けるなどの工夫を施した。また、菓子製造室の配置には何度も協議を重ね限られた面積の中にプロ仕様の大型オープン等の調理機器、パッケージ用品、完成商品の

収納場所等、美味しいお菓子を作るだけでなく安心・安全にこだわり徹底した衛生管理ができるようにしている。

■SHOPの顔づくり

1階のSHOPで販売している焼き菓子は人気のオーガニックショップに卸している事もありそれにふさわしい魅力的なSHOPデザインとしたかった。職員の希望はシャビーシックなデザイン。使い古された中にも優雅さのあるアンティークが似合うSHOPの顔づくり。大通りからも目立つようにCG画像にてイメージの共有と細部の検討を行った。



テント：ブラック



テント：ブリタッシュグリーン



テント：ブラウン



テント：チェリーピンク



▲SHOP外観

アイアンの看板や木製のドア取手に流木を使う等、何か楽しい事がありそうな、地域の方が訪れたいくなる仕掛けをちりばめた。